

## 平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 大阪狭山市

実践研究校名 大阪狭山市立南第二小学校

【公開授業】公開日：平成25年9月24日

対象学年：5年

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 (单元名) Lesson 4 「I like apples.」	(本時の指導の目標) ・友だちに好きか嫌いか尋ねたり、自分が好きなものを答えたりして、友だちと積極的に交流を楽しむ。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ・“Do you like ~?” “Yes, I do.” “No, I don't.” の表現を発話しながら、英語の音声やリズムに慣れ親しむ【外国語への慣れ親しみ】
--	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・積極的に英語で交流できるように、子どもたちが興味を持てるような設定でインタビュー活動を行った。
- ・子どもたちの英語理解につなげるために、ジェスチャーをつけて表情豊かに英語を話すようにした。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・興味を持って、インタビュー活動ができるように、家庭科の授業とつなげるよう工夫した。家庭科のフルーツポンチづくりにつなげる活動を行った。児童の反応は、いつもより緊張気味であった。

【研究協議会】

(テーマ) ・授業内容は単元目標に沿っていたか。 ・児童は、積極的にコミュニケーションをとろうとしていたか。 ・児童は、英語表現に慣れ親しんでいたか。 ・使える英語プロジェクトのテーマに沿った学習活動ができていたか。	(指導・助言者) 大阪狭山市教育委員会 主幹 尾島 肇
--	-----------------------------------

(研究協議会で出された意見)

- ・指導者のジェスチャーと表情が良かった。
- ・クラスルームイングリッシュをもう少し増やし、児童に英語を聞くことに慣れさせるとよかった。
- ・チャンツのときには、児童の表現を豊かにするため、児童を立てさせて取り組ませたほうがよかった。
- ・ALTの英語を聞かせることを意識して、ロールプレイの場面を設定するとよいのでは

ないか。

- ルール説明は短くし、デモンストレーションで示したり視覚化したほうがよい。
- ふりかえりの場面では、シートを活用して次時の活動や家庭科の学習とつなげるとよかったのではないか。

(まとめ)

クラスルームイングリッシュや ALT を効果的に活用する場面を増やすことで、子どもたちが英語に触れる機会を増やす。指導者はジェスチャーや表情を付けて英語を話すことで、子どもの英語理解につなげる。